

A-25 積雪期 西穂高岳(2909m)

【山行日】2022年3月12日～13日

【CL】3028 【参加者】3357 3385 3433 3463 3570 3577 3748 3752 3775

【コース】1日目：名駅==一宮 IC==高山 IC==平湯==11:00 新穂高 RW++西穂高口…13:30 西穂山荘 2日目：西穂山荘 5:00…丸山…6:15 独標…9:00 西穂高岳…11:00 山荘…12:50 西穂高口 13:30==平湯の森(温泉)==名駅

スノーアドベンチャー西穂高岳は4年ぶりに3月13日(日)登頂致しました。サミットアタックの日は視界が10-20mで風雪も強く困難な登攀でしたが、10人全員無事に下山しました。これぞアルパインクライミングの世界でした。

スノーアドベンチャー西穂高岳はここ数年、悪天候やコロナ禍に悩まされて山行自体が中止となった。悔しくて欲求不満になった会員も幾多。

今年こそと計画したおかげで、土曜日は絶好調の小春日和となった。トレーニングで独標まで軽く足慣らし。参加した会員の足並みも揃って快調に岩場に差し掛かる。天気も最高だし、積雪状況も良好で見上げると「穂高ブルー」の空が我々を包んでくれているのではないかと独標の岩場では参加者はいずれもアイゼンのフロントポイントで岩の窪みに入れて巧く登っている。ピッケルをダガーポジションで最後の急登を切り切り、全員でピッケルタッチ！で感動を共にする。下りの方が実は厳しいので明日の本番に備えてダブルアックスでバックステップでの練習をする。皆さん上手にバックで降りている。これなら明日は大丈夫だと言いついて聞かせて雪稜を下った。



2日目、日曜日は風雲急を告げる天候。朝から霧が一杯で前途多難の様子である。昨日のトレーニングで参加者も自信一杯であり不安もない。意を決してサミットアタックに挑戦。独標、10峰、9峰と視界が30m程度だが、雪稜の状況も良好である。雪稜の飛驒側を歩き、ピラミッドピークに到着。ちょっとここで小休止するが、あたりは何も見えない。強風で岩という岩もエビの尻尾状態でアイゼンを岩に掛けると滑りやすい。岩と氷と雪稜の連続で、赤岳主稜並みの難易度になっていた。ロープこそ出さなかったが、行き交うガイド山行は定番のアンザイレン登攀をしている。

チャンピオンピークあたりのいやらしいトラバースを幾度も越えていくと本峰の雪稜が見えてきたが、視界が10mではっきり確認できない。本峰直下の雪稜をダブルバイルで登攀するつもりでいたが、運よく雪稜右側の岩峰が登りやすくなっていたため、雪稜を避けて遂に本峰標識に至った。参加者全員でピッケルタッチを行い、お互いの健闘をたたえて登頂を祝った。



下りの方が核心部であるが、アタック成功した会員は高揚感に包まれてすんなり下山してしまった。

参加した会員の皆さんは今度こそは天気の良い西穂高岳に登りたいと贅沢を言っていた。頑張った仲間達に「登頂おめでとう」と！ 機会があれば再トライをしよう。(3028)